

平成30年度 第3回 藤沢市地域福祉計画推進委員会

議 事 要 旨

I. 開催概要

1. 日 時 2018年(平成30年)11月26日(月)
9時30分～12時00分

2. 会 場 藤沢市役所本庁舎5階 5-1・5-2会議室

3. 出席者

(1) 委員=20名

石渡 和実, 北島 令司, 松永 文和, 東田 正喜, 三枝 公一,
戸高 洋充, 宮久 雪代, 木村 依子, 越智 明美, 市川 勤,
定永 紀子, 南部 久子, 椎野 幸一, 川辺 克郎, 川原田 武,
伊原 敦, 堀口 陽子, 越川 玲子, 松沢 邦芳, 江崎 康子

(2) 事務局=14名

障がい福祉課：鈴木課長補佐

市民自治推進課：青木課長補佐

地域包括ケアシステム推進室：平井室長, 三ツ井主幹, 内田主幹, 新井主幹,
齊藤室長補佐, 一瀬主査, 糊澤, 小野

藤沢市社会福祉協議会：倉持参与, 村上次長, 平澤課長補佐,
垣見生活支援コーディネーター

(3) 傍聴者=1人

4. 議 題

1. 開 会

2. 議 題

(1) 藤沢市地域福祉計画 2020 <中間見直し>の進行管理について

(2) 次期計画改定に向けた地域福祉に関するアンケート調査について

3. 意見交換

(1) 藤沢市地域福祉計画 2020 <中間見直し>の「施策の展開」における各団体の取り組みについて

4. その他

5. 閉 会

II. 会議の概要（議事要旨）

1. 開会

2. 議題

(1) 藤沢市地域福祉計画 2020 <中間見直し>の進行管理について

◆事務局より資料1から資料3に基づき説明。

椎野委員

説明がありましたが、これまでの進捗管理のやり方を議論してきましたが、これまでの議事録を確認するといい意見が出ており、それぞれのいいところを加味して案3が出てきたと思います。今後は行政・市社協・地域の情報をどうやって集めてまとめるかが重要です。その中から、まとめ上げてきたものを委員が評価等をする、こういう風に事務局はまとめようとしていると思います。委員の中でも地域の取組をすべて把握できていないため、よく分かるようなまとめ方をしなくてはいけないと思います。今回は案3を提示していて、私もいいなと思っています。ただ、市社協は活動計画を作成しており、行政といかに協働しているかが重要であり、そういった点を踏まえると、案2もいいかなって思っています。松永委員が前回、行政・市社協の連携が重要と話していました。行政が作って、それを市社協が活動計画にどのように反映していくか、これを市社協も考えなくてははいけません。こういった形であっても、情報収集が重要

で、これは市民センターがまとめるべき。地区のことは市民センターがよく知っているはず。私は委員会のことを地域に下ろしています。だれが責任をもって情報を集め、どうやって施策に反映させるかが重要で、そこまで決めておかないと、委員が判断しづらいと思います。

石渡委員長

椎野委員は案3もいいが案2もいいのではないかとの意見。また、地域の取組についてはどのように集めていくのか、市民センターがまとめることがいいのではとのご意見がありました。

椎野委員

地域の活動は市民センター長でも権限がなく、あれやれこれやれとは地域に指示できないと思いますが、地域を把握しているのが市民センターだと思います。

事務局

椎野委員からの意見は大きく分けて2つあったかと思えます。一つ目の進行管理について、案3だけでなく、案2のように、市社協の取組についても施策の方向性ごとにまとめるといったご意見ですが、前回の委員会の後に市社協と調整した中で、市社協の取組は単独で行っているというよりも、地域の方と一緒に、地域の皆様の下支えをさせていただいていることがメインなので、行政と一緒にというよりも、地域の方と一緒にというところで案3を今回お示しさせていただきました。しかし、構成はまだ決まっていないので、椎野委員からご提案の案2でも問題ありません。あくまで今回は事務局案であり、今年度中に形を決めさせていただきたいと考えています。

また情報収集ですが、資料3の9ページに記載されている、この情報をどうやって集めるかが重要だと考えています。今回は委員の皆様にご協力いただいたものをお示ししています。集め方につきましては、例えば、地域福祉推進委員会にご参画いただいている委員の皆様は様々な団体に所属しており、日々地域福祉に寄与されている活動に取り組まれているかと思えますので、委員の皆様に情報収集をご協力いただければと考えています。また、市民センターからの情報収集も重要ですので、委員の皆様からの情報プラス市民センターからの情報収集を検討しています。

椎野委員

地域活動は各地区で行われており、地域団体は各地区に事務局があるため、そのようなところに協力してもらえればいいと思います。しかし、市社協の取組

は中々地域の人では見えづらく、現状は市社協が考えたことを地域が実践するといった形。そのため、地域の活動がもっと鮮明に出ないと、進行管理ができないと思います。行政と市社協は連携して方向性を出し、これを地域が実践することが重要だと感じています。

事務局

市社協の取組は行政に寄り添い、地域に寄り添いといった非常に重要なものです。そのため、どのように表現するかは再度考えさせていただきたいと思います。

また、地域の取組をすべて集約してまとめることはご指摘の通り非常に困難だと感じています。今回進行管理を行うにあたり他市町村の動向を確認しましたが、行政の取組のみをABCで評価するか、もしくは進行管理をしていない市町村しかありませんでした。そのため、今回の藤沢市の手法は前例がありませんが、地域の取組の視点が重要だと考えているため、このような案をお示しました。情報収集についても市民センター等に協力いただきながらも、まとめるのは事務局のため、しっかりと連携していきたいと思います。

松永委員

地域福祉計画は行政計画のため、行政計画をどのように判断していくか。市社協が事務局の活動計画は別であるため、方向性は同じであっても、まったく同じではありません。

進行管理にあたり、評価するためではなく、施策につなげるにはどうするかといった視点が重要だと思います。今回は例として提示していただいているのですが、市社協や地域の取組をそれぞれ記載する中で、地域の取組をどこまで記載するのが非常に難しいと感じます。行政・市社協が絡む地域の取組なのか、それとも地域単独の取組も記載するのか。当然、活動計画とはしっかりと連携しているのが大前提ですが、そのあたりも整理しないといけないと思います。

伊原委員

市社協としては、行政施策も意識しながら地域の活動を支援していくといった難しい立場のため、どちらの案がいいかとは中々言いづらいですが、椎野委員のご指摘の通り、情報収集が非常に重要になってくると思います。

石渡委員長

今回の委員会でどのように進行管理をするかを決めたいと思います。情報収集の問題はありますが、そこは後ほど考えさせていただくことにし、まずは、案

2または案3のどちらにするかご意見をいただければと思います。

椎野委員

行政計画はまずは行政の取組を進行管理すれば十分ではないでしょうか。それを委員に示し、評価し、これを踏まえて市社協などが取組を進めていくのではダメでしょうか。

事務局

椎野委員のご指摘の通り、行政の取組をしっかりと進行管理し、評価することは重要だと考えています。ただ、地域福祉計画は行政計画であります。市の地域福祉をどのように進めていくかを示す計画です。地域福祉を推進するのは当然行政だけでは難しく、市社協や地域の方と一緒に取り組まなければ難しいところが多々あります。そのため、今回は行政だけでなく、市社協、地域の取組も記載させていただき、その中で、例えば、市社協、地域の取組についてご意見をいただくことにより、行政としてどのような取組を行えば市社協や地域の取組を下支えできるかを考えることができる。そのようにトータルで考えることが重要と判断し、今回の案をお示ししたところです。

椎野委員

案2でも案3でも中身は同じ。まとめた結果は同じになるかと思っています。その結果に対し、委員がどのような意見出すかが重要だと思います。どの案がいいのかが決まらないと、委員としても議論ができません。

市川委員

委員の皆様の中には、関心を持って事業に携わっている方も多いかと思いますが、取組をまとめた後に的確な意見を述べることができるかが不安です。現在のまとめ方だと、行政の取組の事実は分かりますが、詳細が中々分からないのではと感じています。というのも、13地区すべてでやった取組なのか、それとも一部の地区だけなのか。分からないことは分からないでもいいとお話がありました。委員として参加している以上は、多少はしょうがないと思いますが、分からない取組が多いと情けない。評価をするにあたっては、もう少し分かりやすい中身にさせていただけるとありがたいです。今までの議論を踏まえて作ると思いますが、入り口に時間をかけるのはもったいないので、中身の議論をぜひ行いたいと思います。

事務局

今回は案2をお示しし、今回は案3をお示ししました。違いとして、市社協の位置づけが変わっています。今回の資料はあくまでイメージするための資料であり、各取組は簡単に記載しています。今回は案3を提示していますが、委員からは案2のほうがいいのではと意見もありましたので、どの案がいいのかを決めさせていただきたいと考えています。中身は今後決めさせていただきますが、今回はどの形で進行管理をするのかをぜひ決めていただきたいと思います。

石渡委員長

今回は入り口のことを決めていただいて、中身については来年度以降に議論していただく形になろうかと思っています。案2と案3のどちらがいいのかについて結論を出してきたいと思っています。

堀口委員

資料1を拝見すると、案2がいいのではと感じました。行政と市社協の関係性を考えるとこちらがいい。地域では実際に活動していると、地域福祉計画を知っている方が少なく、読んだことがある方はごく一部でした。そのうえで地域福祉計画を地域に紹介したところ、私どもの活動が地域福祉計画に合致していると感じるといった形でしたので、地域福祉計画を目標にして地域活動をしているのとは逆でした。そういった意味で、行政や市社協の立ち位置を考えると、案2のほうがいいかと思っています。

石渡委員長

行政、市社協のそれぞれの立ち位置を考えて案2がいいといった意見。市社協と行政と市社協が一体となって地域に発信してもらいたいといった整理かと思っています。

江崎委員

私は案3を押させていただきたいと思っています。市が責任を持つといった意味で、案3のほうが分かりやすい。市社協は活動計画を立てており、市の地域福祉計画を意識して作成していますが、市社協が主体となって作成した活動計画であって、地域のそれぞれの主体がそれぞれ取り組む。地域は行政に縛られない自由な発想で活動していると思いますが、それを市が統制するよりも、連携しそれぞれが自主的に活動する、そのような関係性がいいと思います。そういった意味で、主体が明確な案3がいいのではと考えます。

堀口委員

実際のところ、市の方針があって市社協が活動計画を立てるのか、それとも市社協は主体的に計画を立てているのか教えていただければと思います。

伊原委員

市社協が活動計画を作成する際に市の方向性を意識して作っていますが、実際のところ、決まった形はありません。重要なのは、市、市社協、地域がそれぞれ連携することが重要で、結論として、行政と一緒にないといけないとは決まっています。

石渡委員長

主体はそれぞれの中で、それぞれが連携するといったことが重要だと思います。

松永委員

地域福祉計画は、福祉分野における行政計画の中でも上位計画に位置付けられました。この計画で重要なのは他の計画との連携で、さらに行政の取組が地域に根付くといったことが重要であり、そのようなことを支援する計画になるべきものです。個別課題・地域課題は重要だが、軸がぶれてしまうとよくないと思います。

川辺委員

案3の方がいいと思います。行政計画であれば、評価は行政の取組を行い、地域の取組は活動計画で具体的に行うのがいいのでは。案2だと市社協の位置づけが曖昧で、市社協は地域を下支えするといったことなので、そういった意味で、案3がいいのではと思います。

椎野委員

案3でもいいのではと思っています。活動状況を地域に知ってもらわないと評価はできません。中身が重要で、そこを整理するのが難しいですが、非常に重要だと思います。

石渡委員長

入り口の結論を出さないといけませんが、川辺委員が整理してくれたとおり、委員会としては案3を結論にしたいと思いますが、いかがですか。皆さんからご同意をいただきましたので、委員会としては案3を結論にさせていただきます。中身については今後考えることになろうかと思っています。また、情報をどう

やって集めるかも課題としてあがっています。

事務局

地域の活動の取組の収集については、市民センターにも協力していただき、さらに委員の皆様にも協力していただければと思います。皆様の選出母体の団体やご存知の活動をご提供いただき、それをまとめて委員の皆様にお示ししたいと考えています。

木村委員

市民活動推進センターなどにも地域活動の取組を把握しているかと思うので、そのような団体にも協力していただけるといいと思います。

椎野委員

市民の皆さんが自分の地区で地域福祉計画を知っているかどうか、委員の皆さんにぜひ地域で聞いてもらいたいともいます。委員の皆さんにも協力してもらうことも必要になると思います。

事務局

現在は、例えば団体にお邪魔して地域福祉計画について説明していますが、こちらからもっと地域に出て話をしないとイケませんので、行政としてもっと地域に出ていきたいと考えています。

石渡委員長

堀口委員もおっしゃっていましたが、地域に知ってもらうことが足りないので、評価もそうだが、地域に知ってもらうことも委員会としての課題かと思います。私自身も含め、委員の皆様とどのように解決するか検討していければと思います。取組については、委員の皆様にもご協力いただき、可能な限り情報収集をしていただき、市民センターにも協力してもらうといったことを結論としたいと思います。

戸高委員

地域福祉計画が市民センターにしっかりと下りているのかが分かりません。市民センター長はどれくらい知っているのでしょうか。

事務局

市民センター長には地域福祉計画について説明させていただいています。各市

民センターに地域福祉計画は配架していますが、他の職員には直接お話しはできていないのが現状です。

戸高委員

市民センターにも役割をしっかりと意識してもらいたいと思います。

堀口委員

地域への下ろし方ですが、団体の会長にお話ししてもなかなか他の方には話が下りていないのが現状だと思います。実際に、この委員会の委員であっても、自分も含めてしっかりと話しができていない気がします。団体の会長に話をす
る際には、ちゃんと他の団体の方にも話してほしいと何度も言わないと伝わらないと思います。

市川委員

いまの堀口委員のお話はその通り。私も多くの会議に出っていますが、他の自治会長さんにもお話しはしないといけないと思っています。ただ紹介するだけではなく、念を押すと聞く側も受け止め方が違います。ぜひ軽い気持ちで聞くのではなく、自分こととして受け止めてもらうようになってもらわないといけないと思います。

椎野委員

皆さんの立場もそれぞれあると思います。御所見地区では、地区社協が中心になって、地域福祉計画を考えています。そのため、私は地区社協などが集まる場で、この委員会のことを情報共有しています。市民センターの中にも積極的な方とそうでない方もいるかと思っています。ただ、地域環境によって違うと思いますが、それぞれの地域に合った主体が中心となって、地域福祉計画を考えてもらえれば。

石渡委員長

私たち委員の役割も非常に重要です。行政はもちろんのこと、委員も情報発信していくことが必要になってくると思います。

松永委員

行政の取組を進行管理する際に、単年度事業なのかそれとも中長期的事業なのかでも評価手法が変わります。先も意識して評価するのか、それとも単年度における課題等を指摘するのか。成果物をより良いものにするために、どのよう

な評価手法が良いかということも考える必要があるかと思ひます。

石渡委員長

実は、先日藤沢市内の団体活動の紹介会に参加しましたが、地域に根差した団体活動が非常に活発で、藤沢市は改めてすごいと感じました。地域に密着した取組を把握することも重要です。この点は市社協がよく把握しているかと思ひますので、ぜひ協力してもらえれば。藤沢市のいいところを少しでも生かしていきたいと思ひます。

今回、非常に重要なご意見が多々ありましたので、事務局はもちろんのこと、委員の皆さんも一緒に改めて考えていければと思ひます。時間が限られていますので、次の議題に移らせていただきます。

(2) 次期計画改定に向けた地域福祉に関するアンケート調査について

◆事務局より資料4から資料6に基づき説明。

石渡委員長

今回の資料をご確認いただき、次回以降ぜひご意見をいただければとのことですので、ぜひ改めてご一読いただければと思ひます。今の時点でご意見がある方はいますか。

松沢委員

以前の結果だと、若い世代の回収率が非常に悪いと思ひます。そのため、アンケートの表紙にイラストを記載するなど、中身を見てもらうために引き付ける工夫をしてもいいかと思ひます。

事務局

ご高齢の方は回収率75%くらいですが、若い世代は低いのが現状です。まずは見てもらわないと回収もできませんので、見てもらう工夫が必要だと感じています。

ご指摘の通り、新たな視点も含め、検討していきたいと考えておりますので、次回以降、ご意見を伺えればと思ひます。

椎野委員

アンケートの設問は委員会だけでなく、関係する機関にも確認すると、より効果的なアンケートになるかと思います。

南部委員

設問の設け方で、具体的な名前を出すと、結果は変わってくるかと思います。例えば、ボランティアセンターの知名度も村岡地区は「ぬくもり」、辻堂地区は「すこやか」などの愛称で聞くと違う結果だったと思うので、ページ数が限られているかとは思いますが、できる範囲で記載していただければと思います。

三枝委員

目的は次期計画の改定に向けたものだと思いますので、設問の聞き方も工夫する必要があると思います。

石渡委員長

様々なご意見をいただき、ありがとうございました。こちらの詳細は次回以降に改めてご意見をお願いいたします。

3. 意見交換

(1) 藤沢市地域福祉計画2020<中間見直し>の「施策の展開」における各団体の取組について

◆事務局より資料7に基づき、意見交換の趣旨を説明。

事務局

今回は、各団体で実施している地域福祉計画の方向性に則した取組をお話していただければと思います。この意見交換の結果は、次期計画改定に生かさせていただければと考えております。また、次回についても、違う視点での意見交換を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

石渡委員長

次期改定に向けた意見交換ですが、今回は時間も残りわずかですので、本日まで発言があまりできていない委員の方を中心に発言いただければと思います。

木村委員

本日お配りした冊子は、子育て応援メッセで作成したものになります。私たちは毎年、子育て支援を目的に、このようなイベントを実施しています。このイベントでは、市社協や市の関係各課にもご協力をいただいています。この冊子は、子育て支援をしている団体に協力してもらい、原稿を記載していただき、事務局でまとめたものなので、市内の子育て支援団体は概ね網羅できていると思います。特に乳幼児期は親御さんの横のつながりが中々ないので、こういう冊子をきっかけにつながりができればと考えています。子育て応援メッセでは、ブースを各団体に出店してもらい、来場者のお母さんたちに生きた情報を直接お伝えしています。なお、この冊子は毎年更新しており、常に生きた情報を伝えるツールとなっています。

越智委員

私たちは子ども会の連絡協議会として、現場で直接子供たちに接する機会は少ないですが、子どもたちの教育や成長に欠かせないものに関する研修を実施しています。また、新しく子ども会を立ち上げる方に対しての支援も行っています。情報が誰でも収集できるようになることも考えている。

また、誰もがざっくばらんに意見交換ができる場も作っており、例えば、研修会の後は多くの方が残って連絡先の交換などを行っています。まずは、つながることが重要だと考えています。

宮久委員

障がい者は地域社会においては少数のため、この委員会での自分の立ち位置が難しいと感じています。何事においても、障がい者は置き去りにされている感があります。障がい者が家族にいるために、時間がないことや、理解をされていないことが原因で介護者は地域活動ができないこともあります。障がい者が適正に支援されているか、高齢になっても支援されているかといったら、そうでもありません。現在、障がい児を預けるところは増えましたが、その結果、地域意識が薄くなったと思います。というのも、親の職場のそばなど、自宅から遠いところに預けることが多いため、地域のつながりが無くなってしまっていることが原因です。

要支援者の問題も、防災訓練に関われば解決できますが、そもそも障がい当事者や家族があまり参加していません。地域の方に理解してほしいと思っていますが、それには、障がい当事者やその家族本人が地域で生きていることを自覚することが必要で、そのための理解啓発が重要だと考えています。

地域につながりがあると、本当に心強いですが、そのため、地域福祉の中で、障

がいに関して、より考えられるといいなと感じています。

定永委員

自治会町内会の代表としてこの委員会に参加していますが、それ以外に、個人的には地域の縁側を運営しています。また、善行地区協議体にも所属しています。この協議体は善行地区の様々な団体から委員として参加しておりまして、非常な活発な動きをしています。例えば、善行団地などでコミュニティカフェを開催し、居住者の困りごと、地域の困りごとを収集したりしています。できましたら、他の地区の協議体で実施している取組も是非聞いてみたいですね。地域福祉を推進する上では、非常に参考になるかと思っています。

越川委員

私は公募委員という立場で参加しており、団体に属していないため、自分の地域で行われている活動も中々把握できていないのが現状です。先ほど木村委員からお話があった子育て応援メッセは参加したことがありますが、非常に有益な情報を得ることができました。

地域の活動を知りたい際に、どこに聞いていいかが分からない方も多いと思います。また、知っても中々参加しづらい、ハードルが高いと感じてしまう方もいるかと思っています。このような地域における取組は非常に重要な取組だと思うので、もっと開かれたものになるといいなと思います。

川原田委員

湘南大庭地区社協の会長を仰せつかっております。地区社協としては、ここ数年で事業の活動範囲が広がりました。しかし、地区社協の担い手も高齢化が進んでいますが、若い方が中々入ってきません。そのような状況の中で、これからは事業を広げていくのではなく、絞っていく必要もあると感じています。今後は自治会町内会がポイントになるかと思っており、地区社協として、自治会町内会と連携して活動をしていければと考えています。地域住民に一番身近なのは自治会町内会なので、非常に重要です。すべての取組・分野が社協の絡むものですので、そういった中で、どうしていくかを考えていきたい。また、今まで以上に、本庁が市民センターのことも考えてほしいと思います。

北島副委員長

市民センター・公民館を利用する人は、施設を分けて考えていないので、利用者の目線に立つと、一本化してくれるとありがたいと思います。

地区社協では、人材育成、ボランティアに関する取組を実施していますが、ボ

ランティアセンターに入ってくれる人は半分くらいです。行政や市社協にも協力していただき、地域でも人材育成を進めていきたいと考えています。

東田委員

市老人クラブ連合会の副会長の東田です。老人クラブは、参加者がどんどん減っており、高齢化率も上昇しています。また、活動をしたくないといった人が増えてきています。福祉に関しては友愛チームを設置していますが、実態は分からないところもあります。各地区によって、特徴が大きく異なっています。民生委員と連携している地区もあれば自治連と協力しているところもあり、そのようなところは活動もうまくいっていると思います。活動などが十分に理解されておらず、地域に浸透していない、そのような課題をどうしていくかを考えており、このような課題は他の団体との連携が不可欠なので、ぜひ協力していただければと思います。

4. その他

- ◆事務局より（仮称）藤沢おれんじプランについて説明。

5. 閉会

石渡委員長

時間が超過してしまい、申し訳ありませんでした。しかし、非常に多くのご意見をいただくことができ、私自身、勉強になりました。それでは、事務局にマイクをお返ししたいと思います。

事務局

長時間にわたりありがとうございました。次回は2019年3月25日の9時30分からになりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日は大変お疲れ様でした。

以上